

割れない、はずれない 耐震構造の ダクティル鑄鉄異形管



朝日鑄工株式会社

歩留まりの改善で不良率が0.5%以下に

朝日鑄工は口径75mm～350mmの異形管作りに特化した会社である。水道管の継ぎ手である異形管は水道工事の際に水道管を進む方向に曲げたり、枝分かれさせたり、下水道をまたいだりする部分に使われる。

「当社における異形管の生産量は、日本でもトップクラスであり、特に不良率の低さに関しては日本一だと自負しています」と語るのは平山太一社長。砂型の鑄物作りで不良品の割合が0.5%以下、1000本中5本とは驚くべき数字だ。

「今までは不良率の目標を15～20%に掲げて、なかなか達成できなかったのですが、歩留まりの改善作業をすると、付随効果として不良率も改善されるようになったのです」。歩留まりの向上が不良率にも大きくかわり、電気代や人件費も節約できたと言う。それを実現したのは原材料である鑄物用銑鉄とスクラップの配合割合。2対8から8対2と銑鉄を増やしていくことにより鑄物特有の欠陥が減少した。これにより

より歩留まり率は55%から75%にまで向上し、材料の使用量も減らすことができた。

毎月1回会議を開いて不良品の集計をし、担当部署が原因の発見と対策に当たる。もう一方で従業員全員の意識改革に努め、「不良品を出さない」ことを徹底させた。待遇面でも細やかに配慮し、仕事に対するモチベーションを上げた。

さらに、製品のすべて、一つひとつを人の手を通して検査し、間違いのないものだけを顧客に届けることを徹底している。

QCDDの安定が顧客を呼び込む

受注は大手企業からの定期的な注文と、工事業業に参入する資材商社からの買い付けの2本柱。後者については水道工事に合わせて発注があり、注文の翌日には納品しなければならぬのだ。売れ筋商品が決まっただけで在庫管理で調整できるとはいえ、東は新潟県から西は山口県までの地域へ出荷のトラックを毎日走らせる努力は並大抵のことではない。たとえ品質が確かであってもありとあらゆる注文に対応できる生産体制や納期厳守がなければ取引は成立しない。同社には、ものづくりに必要な「QCDD（品質、価格、納期）」が三拍子揃っているとの評判を聞きつけて相手企業から商談に訪れる。

「水道管は日本全国共通の業界団体規格があり、それを守って作らなければなりません。当社のものづくりは、際立った特長や強みがあるわけではありませんが、長年一生懸命

朝日鑄工株式会社

Company Profile

住所 / 〒593-8324
大阪府堺市西区鳳東町6-616
創業 / 昭和14年8月
設立 / 昭和26年9月
資本金 / 1,500万円
従業員 / 115名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-271-1561
FAX / 072-271-1810



平山太一さん
取締役社長



平山理さん
常務取締役

主な事業内容

ダクティル鑄鉄異形管、ダクティル鑄鉄鑄物の製造等

作り続けてきた熱意があり、品質も確かです。水道管を作るための工程は最初から最終までを自社で行うようにしています」と平山社長。耐震管への普及率はまだ12～13%。老朽化した水道管もあり、50～60年後も工事は切れることがないと言う。

ISO 9001

<http://www.itumo.net/~asahichuko/>